

横浜市感染症発生動向調査報告 10月

《今月のトピックス》

- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が継続して出ています。
- 手足口病の流行警報が発令中です。

◇ 全数把握の対象

〈10月期に報告された全数把握疾患〉

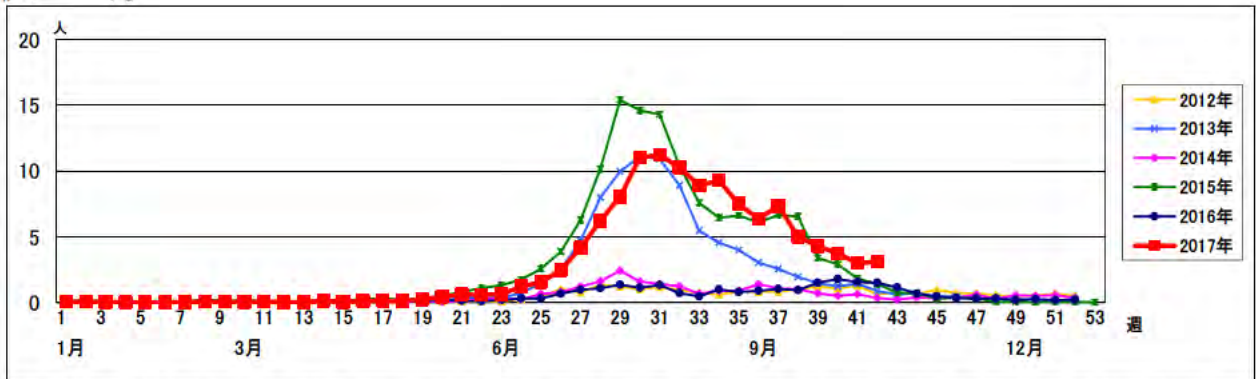
腸管出血性大腸菌感染症	12件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件
E型肝炎	1件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症含む)	3件
デング熱	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	7件
レジオネラ症	6件	水痘(入院例に限る)	2件
アメーバ赤痢	4件	梅毒	12件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	3件	風しん	1件
急性脳炎	2件	—	—

- 腸管出血性大腸菌感染症: O157の報告が10件、O26の報告が2件ありました。うち、20歳代でHUSの報告が1件、無症状病原体保有者の報告が2件ありました。
- E型肝炎: 1件あり、中国での経口感染と推定されています。
- デング熱: 1件あり、インドネシアでの感染と推定されています。
- レジオネラ症: 肺炎型の報告が6件ありました。感染経路等不明です。
- アメーバ赤痢: 4件の腸管アメーバ症の報告がありました。いずれも国内での感染と推定され、経口感染が1件、性的接触(性別不詳)が1件、感染経路不明が2件でした。
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 3件の報告があり、感染経路等不明でした。
- 急性脳炎: 10歳未満の報告が2件ありました。いずれも病原体不明です。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: 1件の報告があり、感染経路等不明でした。
- 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む): AIDSの報告が2件、その他の報告が1件あり、いずれも男性でした。感染経路は、同性間の性的接触が1件、異性間の性的接触が1件、異性間の性的接触または薬物の静脈注射が1件でした。
- 侵襲性肺炎球菌感染症: 70歳代の報告が4件(いずれもワクチン接種歴不明)、60歳代の報告が2件(ワクチン接種歴なし1件、不明1件)、40歳代の報告が1件(ワクチン接種歴なし)でした。
- 水痘(入院例に限る): 30歳代の検査診断例の報告が1件(ワクチン接種歴不明)、10歳未満の臨床診断例の報告が1件(ワクチン接種歴なし)ありました。
- 梅毒: 12件の報告(無症状病原体保有者4件、早期顕症梅毒Ⅰ期5件、早期顕症梅毒Ⅱ期3件)がありました。いずれも国内での感染で、男性8件、女性4件でした。感染経路は、異性間性的接触が9件、同性間性的接触が1件、性別不詳の性的接触が2件です。

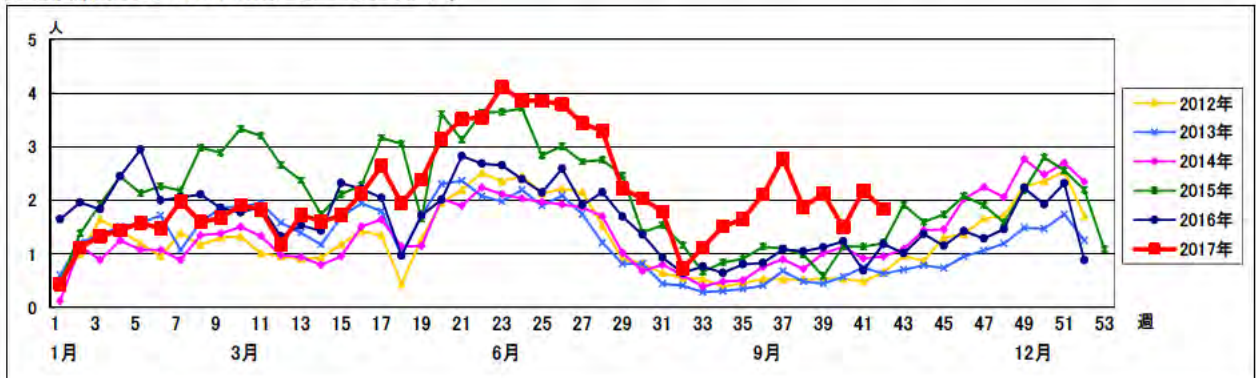
◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
第39週	9月25日～10月1日
第40週	10月2日～10月8日
第41週	10月9日～10月15日
第42週	10月16日～10月22日

1 手足口病:第26週で定点あたり2.45、第27週で4.13と増加し、第28週で6.20となり、警報発令基準値(5.00)を超えました。第31週に11.20となり、その後は漸減し、第42週では3.08となっています(警報解除基準値は2.00)。



2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎:第35週で1.65、第37週で2.78と増加し、その後も報告数の多い状態で推移し、第42週では1.83となっています。



3 性感染症(9月)

性器クラミジア感染症	男性:35件	女性:25件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:5件	女性:12件
尖圭コンジローマ	男性:8件	女性:1件	淋菌感染症	男性:18件	女性:1件

4 基幹定点週報

	第39週	第40週	第41週	第42週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.33	1.00	1.00	0.50
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(9月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	7件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件		—

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

10月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点41件、内科定点16件、眼科定点3件、基幹定点4件で、定点外医療機関からは2件でした。

11月9日現在、表に示した各種ウイルスの分離株15例と遺伝子15例が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(10月)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	イン フル エン ザ ^{*1}	R S 感 染 症	ア デ ノ 感 染 症 ^{*2}	手 足 口 病 ^{*1}	ヘル パン ギー ナ	そ の 他
インフルエンザ AH1N1pdm09型			1					
インフルエンザ AH3型			3					
インフルエンザ B型山形系統			6					
アデノ 型未同定					2			
パラインフルエンザ 2型	1	1						
パラインフルエンザ 3型	2							
パラインフルエンザ 4型		1						
RS				1				
ライノ	1							
コクサッキー A2型	1							
コクサッキー A4型							1	
コクサッキー A6型						1		
コクサッキー A9型	1							2
コクサッキー B2型		1						
エンテロ 71型						2 1		
エコー 9型	1							
合計	1 6	2 1	10	1	2	2 2	1	2

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数

*1:疑いを含む、*2:咽頭結膜熱を含む

〈細菌検査〉

10月の「細菌感染性胃腸炎」は、腸管出血性大腸菌(O157:H7,VT1&2が5件、O157:H7,VT2が3件、O26:H11,VT1が1件)が9件、サルモネラ属菌(O4群1件、O8群1件)が2件でした。

「その他の感染症」では、バンコマイシン耐性腸球菌(*VanA*)が1件、レジオネラ属菌の3件は*Legionella pneumophila* SG1でした。インフルエンザ菌の莢膜型は型別不能でした。また、その他の3件は、*Actinomyces israelii*、*Mycobacterium abscessus*、*Aggregatibacter aphrophilus* が持ち込まれた菌株から同定されました。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(10月)

細菌感染性胃腸炎			10月			2017年1月～10月		
検査年月	定点の区別		小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
件数			0	2	9	6	49	94
菌種名								
赤痢菌							3	2
腸管出血性大腸菌					9		7	83
腸管毒素原性大腸菌							5	3
腸管凝集性大腸菌							4	
チフス菌							1	
サルモネラ属菌				2			20	5
不検出			0	0	0	6	9	1
その他の感染症								
検査年月	定点の区別		10月			2017年1月～10月		
件数			小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
件数			3	2	52	30	85	193
菌種名								
A群溶血性レンサ球菌	T1					9		1
	T4		1			5		
	T6					4		
	T12					2		1
	T B3264					3	1	1
	型別不能		1			2		
B群溶血性レンサ球菌							2	7
G群溶血性レンサ球菌				1			3	4
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌								3
バンコマイシン耐性腸球菌					1			9
レジオネラ属菌				1	2		2	7
インフルエンザ菌					1	1	1	5
肺炎球菌							5	14
結核菌					45		20	111
百日咳菌							4	
緑膿菌							1	
その他					3		44	25
不検出			1	0	0	4	2	5

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 微生物検査研究課 細菌担当 】